



発行所
西原町役場
〒903-01
西原町字嘉手苅112番地
電話(09894)5-4533
印刷
栄光堂印刷

町の世帯・人口
(昭和57年6月末現在)
世帯数 4,323 世帯
人口 17,379 人
男 8,894 人
女 8,485 人
6月の人口移動
出生 22人 死亡 5人
転入 125人 転出 69人
婚姻 4件 離婚 2件

初の道路排水愛護デー行われる

道路排水愛護思想を高揚し、美しい自然と住みよい生活環境を守る
ろうとー町主催の第一回町道路排水愛護デーが六月二十七日に町内

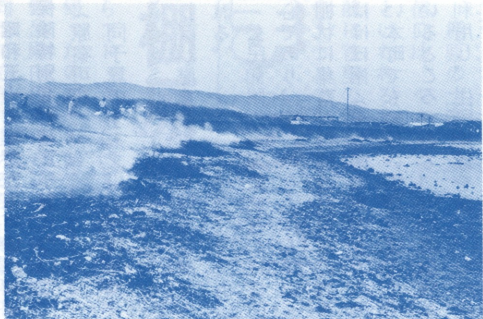


▲草刈りで汗を出す作業員(産業道路で)。

各区分民二千三百人が区の道路、排水、公園などの草刈をして行われた。また、六月三十日午前九時から炎天下の中、産業道路周辺、小波津川周辺、海浜など主要三ヶ所で町内事業所、町役場、町農協などから約二百六十名が参加して清掃作業が行われた。

道路、河川、海浜の三班に分かれ大がかりなクリーン作戦を展開し、道路と河川では周辺の草刈り作業が主で作業員は、手にカマを持ち顔面に汗を流しながら草刈りに励んでいた。また並行して大型車(二トン車)で刈り取られた草

▲清掃作業もほぼ終わりにきれいになった海浜



の東部清掃施設組合ゴミ処理工場への運搬も行われた。
海浜では、空きビン、空きかん、ガラス破片、プラスチック、木片、



▲青草をむすような強い日ざしの中、涼味を求めて木かげに入るとセミがなき、夏の盛りを感じさせてくれる(棚原で)

涼味を求めて

運玉森、造林保育

昨年九月に造林がなされた運玉森の大きかりの保育事業が七月五日から十九日にかけて行われ、ススキ、チガヤ等の伐採で運玉森は褐色の地肌を見せている。これは、昨年植えたデイゴ四、一七〇本、モクマオウ七、三七〇本、ソウシジュ四、三七〇本、ホルトノキ三、〇〇〇本などの成長を促進させるために行ったもの。面積は六・一三ヘクタールに及んでいる。



▲保育事業が行われた運玉森

町公害対策審議員決まる

町公害防止条例にもとづく本町の公害対策審議員九名の辞令交付式が七月十六日午後二時から町役場町長室で行われ、一人一人に



▲審議委員の辞令交付式

十名、小波津川に約三十名が動員された。二日がかりの町民及び事業所の皆様のご協力により道路、河川、海浜とも見違える程きれいになりこの紙面をかりてこの作業に参加された方々に感謝申し上げます。

しかし、不運にも八月一日午後、黄燐弾の自然発火が原因と見られている運玉森の原野火災が起り、約一ヘクタールを焼失した。

寄贈お礼

七月五日早朝、中央公民館にあり人から本四十四冊の寄贈がありましたが、同館職員では寄贈主がわからなく困っております。この

紙面をかりて寄贈主に対しお礼を申し上げるとともに、もしよろしければ同館(電話五三三六五七)にご一報下されば幸いです。

地域史を学ぶ講座

第二回講演会のお知らせ

テーマ・沖繩芝居のあゆみ
講師・上原直彦氏(RBCラジオ局専門職部長)
北島角子氏(芸能人)
日時・八月十九日午後八時
場所・中央公民館大ホール
主催・町青年会文化部

水道の日曜日、祝祭日

修理当番日程

期日	町給水指定店	電話
8月22日	上里金物店	五二四六五四
29日	嶺設備	五二四六〇三
9月2日	新川設備	五二六七四八
5日	泉設備	五二七〇〇七
12日	丸福設備	五二七七七
15日	沖繩冷機	五二九〇九七

職業訓練生募集

訓練職種	定員	期間
溶接科	25名	一年
電気工事科	25名	一年
建築科	25名	一年

▲入校資格

雇用保険受給者等及び一般求職者で、就職の意志堅固な者、但し伝染性疾患のあるものは入校できません。

▲受付期間

七月一日から九月八日まで(但し定員充足次第募集を締切ります。)

尚、詳しい事については、沖繩南総合高等職業訓練校(電話一〇九八八三三三〇〇)にお問い合せ下さい。

児童扶養手当・特別児童扶養手当の額が引き上げられます

57年9月分から

児童扶養手当は、父と生計を共にしていない児童を養育する人（母または母以外の養育者）に支給される手当です。また、特別児童扶養手当は、障害児を養育する人（父か母または父母以外の養育者）に支給される手当です。この二つの手当の支給額が改定され、昭和57年9月分から増額されます。改定額は次のとおりです。

児童扶養手当

◎養育児童1人の場合…3万1,200円→3万2,700円
◎養育児童2人の場合…3万6,200円→3万7,700円

特別児童扶養手当

◎1級障害児童の場合…3万6,000円→3万7,700円
◎2級障害児童の場合…2万4,000円→2万5,100円

夏季テニス大会終わる

町体協主催の第二回夏季テニス大会が七月十一日に南西石油と中央公民館の両コートで男子二十名、女子四名が参加して行われた。尚、決勝戦の結果は次の通り。

▲一般男子ダブルス

小那覇義光 6-1-2 上原義人
泉 明光 高良恵樹
▲一般男子シングル
上原 義人 7-1-5 高良恵樹
▲女子ダブルス
花城美智子 6-1-1 平良ヨシ子
稲福美智子 宮平 恵子
▲女子シングル
稲福美智子 6-1-2 花城美智子

はじめに

二区は、棚原を中心に翁長の一部と上原の一部で組織され、世帯数一八二、人口七九一人の行政区である。棚原は、部落の歴史は古く、元文二年（一七三七年）に浦添間切から編入され、部落界も歴史的に変遷しており、昭和六年には、棚原より森川が分立し翌年昭和七年森川より徳佐田、千原、上原が分立している。従って元々棚原は、現在の徳佐田、森川、千原、上原などを全部含み大きい部落であった。

棚原の方言は、中城村新垣や大里村大城の方言と類似しており、イントネーションに特徴がある。

位置

我謝とともに本町を代表する独特な方言である。棚原は、比較的教員の数が多く教育熱心な地域でもある。

二区は、本町のほぼ北部に位置し、東西に約一・四五キロメートル、南北に約一・二五キロメートル、面積〇・八四平方キロメートルである。

県道三八号線沿棚原入口から従来の県道二九号線を棚原部落向けに北上していくと西原高校が右側の広大な敷地内にそびえ、そこを通過すると、県道の左側に西村こんにやく工場が見える。西村こんにやくの三差路を

健康づくりの食生活

朝食は1日の原動力

1日3度の食事は、どれをとっても健康を守る上で欠かすことはできません。そして、朝・昼・夕ともそれぞれバランスのとれた栄養を摂取することが原則ですが、1日の労働内容や生活時間、食習慣などによって適当に栄養を配分することが大切です。

その点、朝食は、その日1日の原動力となるものですから、頭の回転を良くし、動作を機敏にしてさわやかなスタートを切るためにも、献立には特に気を配りたいものです。ところが、最近、朝食をとらずに出勤するサラリーマンや若い女性、それに朝ごはん抜きで登校する子供が増えています。その理由は「食べている時間がない」「食欲がない」「やせたい」などいろいろですが、昭和55年の国民栄養調査（厚生省）によりますと、男女世代別にみた「朝食抜き」の割合は次のとおりで、20歳代が最も多くなっています。

	10歳代	20歳代	30歳代	40～50歳代
男	14.2%	27.5%	17.8%	9.2%
女	13.3%	19.7%	11.7%	7.7%

ただ、朝食抜きといっても、昼食や夕食で1日分の栄養バランスがとれるようなら、さほど深刻な問題ではないと言えます。しかし、昼食の内容が、満腹感が得られるだけのそばやラーメンといった献立では、十分な栄養は期待できません。むしろ、このような昼食になりがちな人こそ、夏の暑さに立ち向かうスタミナをつけるために、充実した朝食をとりたいたいものです。

ごはんとお粥の少ないみそ汁とか、パンとコーヒーといった朝食では、エネルギーはとれますが栄養的には十分とは言えません。もう一品おかずを増やしたいものです。ちなみに、理想的な朝食とは、良質のたんぱく質、カルシウム、ビタミンCを多く含む食品が優先的にとれるような献立内容のもの、と言うことができます。

主な食品としては卵、豆腐、牛乳、チーズ、ヨーグルト、緑黄色野菜、果物、小魚などがあります。これらの食品をバランスよく食べて、1日のさわやかなスタートを切りたいたいものです。

町議会だより

六月二十二日から二十六日にかけて五日間の会期で昭和五十七年度第三回町議会定例会が開かれた。提出された案件は、議案六件、報告一件、承認三件、同意一件、決議三件、陳情二件であり、案件は全てそれぞれ原案可決、承認、同意され、陳情一件は一部採択と不採択、他の一件は総務委員会へ付託された。

※議案
昭和五十七年度西原町一般会計補正予算について（原案可決）
同予算の才入才出にそれぞれ三億四、二二一萬五千円を追加し、

同補正予算総額を三億九、九一八萬八千円とした。

その補正の主なものは、西原中学校の校舎新増改築工事にかかる学校建設費三億二、三三三萬三千円

七七一萬円を追加し、同補正予算総額を五億三、五一五萬五千円とした。

西原町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について（原案可決）

西原町証人等の費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について（原案可決）

西原町国民健康保険条例の一部を改正する条例について（原案可決）

北に森川、千原一帯と宜野湾市、北西に浦添市一帯と東シナ海、西に首里一帯が一望できる。昔は、棚原グスクの殿でモウアシビ（毛遊）青年男女の夜間の野外での交流の（こと）を行なったと云われ浦添の西原、前田などの隣村からも青年男女が五、六十人程、遊びに通ったそうである。

棚原グスク

坂に変わり、やがて視界に琉大千原キャンパス、森川一帯の全景が広がってくる。

そのワイトイの左手に雄姿にそびえるのが棚原のシンボルで、約八百年前に築かれたと云われる棚原グスクであり、標高一五三・七メートルとその一帯で一番高い。よく見るとグスクの南側に人の顔の形をした切立った琉球石灰岩が地肌をのぞかせる。



道をもつて行くくと棚原グスクに登ることができる。

グスクの頂上付近からは南に運玉森、東に中城湾と中城村一帯、

棚原の由来

棚原は、元文二年（一七三七年）に浦添間切より西原間切へ編入された部落である。

部落の歴史は古く「おもろそうし」にもでてくる由緒ある集落である。伝承によると、最初、棚原部落はシーシマタ（現在の千原に

町社協では、心配ごと相談を毎週水曜日午後2時～5時に行っています。



▲現在の2区棚原の全景、琉大医学部建設現場から撮影

ある。附近にあった。その時に隣り部落の糸浦門中（現在の中城村字津覇）との間に激しい争いがあつた。糸浦門中の巫女が、シジマタ御嶽附近の鍋小堀（ナービクモイ）で水死し、糸浦門中の敗戦で終わる。

その後、部落は森川附近、御嶽山のムンヌ御嶽附近、浦添城のたもと、古島と呼ばれている棚原入口附近などへ移動をくりかえし、一六〇〇年頃にまた棚原グスク附近に移動してきた。棚原入口附近の地名は、俗称でジツチャク（勢理客）とも呼ばれている。

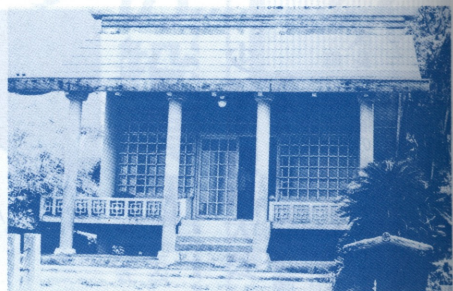
また一説には、棚原部落は三つの古代マキヨ（上の御嶽、シジマタノ嶽、モリノヒラ嶽）から成っており、それらが統廃合してできた集落であると考えられている。一般に沖縄の古代村落では、一村落に対し一御嶽が存在していた。最終的には上の嶽附近にあった。

野呂殿内

棚原配水タンクの下の方に野呂殿内がある。これは「由来記」の棚原巫火神を祀つてある殿である。野呂殿内はマニシカニビ御嶽（上の嶽）の聖地へ向かう手前に位置し、鉄筋コンクリートの壮麗な建物である。城間勇吉氏（県建築士本部長）の設計により十五年前に建てられた。建物の中には中央に祭壇があり、祭壇の中心にミルク神の頭部、その右側にミルク神の

「たなばら」部落が他の古代マキヨ（シジマタノ御嶽のマキヨ、モリノヒラ御嶽のマキヨ）を支配し統合したという説である。

棚原とは、すなわち棚状になっている聖地（ハル）の事であろう。西原口説には「山に上がたる棚原や」とうたわれ、部落の地形を端的に示している。



▲棚原野呂殿内

おらがまち (三)

二区棚原

胸部、左側に祭（ミルク神）の時に吹かれ、独特な音色を出す吹奏楽器）、軍配団扇が安置され、いつでも礼拝できる。ミルク神を祀つた香炉の左手に国元の神とニレの神を祀つてあるという香炉が安置されている。建物の管理は区長がやり敷地内の草刈などは部落の方々が共同作業等で行っている。子ども遊び場にも最適な場所である。ミルク神は、農作の神である。ある人は「そこに祀られている神はユヌ神（世の神）だ。」という。だから旅に出る時は必ず拝



▲ミルク神、祭、軍配団扇

土帝君

（トウティク）

棚原の土帝君（トウティク）信仰は、ウムヌニサトウタヌチュといわれるヒジャの主が二百年頃前に首里の西むい（石嶺付近）から

かその由来伝承は知られていない。ある伝承者は「ヒジャが衰えたために部落に与えたのがそのなりそめた。」というが定かでない。ここに祀られている神は、農作の神と子供の神だと言われ、旧暦二月二日のクスキと旧暦五月四日の子供の日は祭祀が行われたが、現在は二月二日の行事だけしか行われていないという。

この像は、道冠道服を着けた中国伝来の土地爺像であり、一六九八年頃に沖縄に伝来したと云われている。



▲ヒジャ屋敷にある土帝君



2区事務担任者
比嘉貞裕
嶽、石畳、野呂御内、土帝君、石造の豚舎跡、棚原グスクの殿、タカシビス御

▲人口七九一人▲世帯数二一八二▲面積一〇・八四平方キロメートル▲人口密度二九四二人（一平方キロメートル当り）▲耕地面積二四・八六ヘクタール（棚原のみ）

▲事務担当者▲比嘉貞裕▲老人クラブ会長▲宮里武夫▲婦人会長▲城間洋子▲青年会長▲比嘉直也▲棚原スポーツ少年用監督▲城間繁▲伝統行事▲ハチウビ、ウハチ綱、ミルク加那志誕生むらアシビ▲

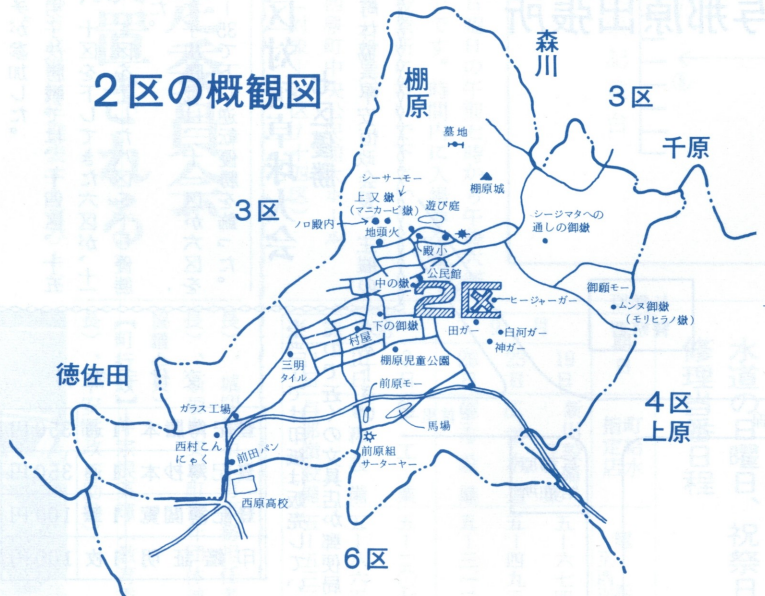
沖縄で初の茶山を開墾

尚敬二十一年（一七三三年）、首里の住人知名朝宣（筑登之親雲上）は王命を受けて、福州にわたって製茶法を学んで帰り、首里から一里半程はなれた棚原山に二万八五四坪を開墾して茶樹を植え、清明、武夷、松羅等の支那茶の栽培と製造をはじめた。茶を植える以前は首里向けの用材産出が多かったが、蔡温のころにはすっかり荒廃していらしく、その荒廃

門中

門中は、比嘉・ヒジャ（比嘉、伊波、糸数、宮里姓）、大殿内・ウフドゥンチ（宮里姓）、薄下・ウシクサ（城間、宮平姓）、新屋

2区の概観図



女子が陸上で十二連勝

町の陸上界で棚原の黄金時代があった。オールドファンにはなつていく、黒のユニホーム姿がひと

あっぱれ西原クラブ 女子が初優勝、全国大会へ

第二回全日本バレーボール小学生(ライオンカップ)県大会が七月四日午前九時から具志川市営体育館で開かれ、西原クラブ女子(監督川金城功恵先生)があげだ(沖縄市)を二一の逆転で下し初優勝に輝いた。また西原クラブ男子も決勝戦まで進み宿敵北玉クラブ(北谷町)と対戦し二一〇で敗れ惜しくも二連勝は成らなかった。女子決勝戦は、二時間余に及ぶ大接戦が展開され、優勝戦にふさわしく一セット目から手に汗にぎる白熱した試合であった。

一セットは、接戦の末、18-16でセットを落し、二セットは逆に15-12でセットを奪いセットカウント二一で最終セットを迎えた。中盤まで11-7であげだにリードされていたが、後半からねばりの西原が猛反撃に転じた。大城のダイレクトスパイクなどが決まり逆

転に成功、14-11と西原がマッチポイントを迎え、大城がスパイクを決めあざやかな逆転初優勝を遂げた。

尚、対戦結果は次の通り。

【女子】

準々決勝

若狭A 2-1 西原東

西原 2-1 0 大浜

準決勝

西原 2-1 0 若狭A

決勝

西原 2-1 1 あげだ

準決勝

西原 2-1 0 赤峰

決勝

北玉 2-1 0 西原

八月十七日から東京で開かれる全国大会に女子が出場するが、大会での活躍が期待されている。



▲小学生バレーボール沖縄一に輝いた西原クラブ女子チーム(町役場で)

不用品バザーの収益金から 町社協へ20万円寄付

町婦人会(大城静子会長)では、七月十一日午前十時から中央公民館で第三回不用品バザーを行ったところ、町内の主婦ら約六百人がどっと押し寄せ足の踏み場もないほど賑わった。衣服類千点、瀬戸物三千点、造花などが出店され、安値も手伝って飛ぶように売れた。午後二時頃閉店となったが、売り上げはざっと三十四万円程度だった。



▲バザーの収益を町社協へ寄付

この不用品バザーはチャリティ活動の一環として行われ第一回目から収益金を社会福祉活動のため寄付をしていたが、今回も七月十

七日に町社会福祉協議会へ二十万円の寄付がなされた。

昭和五十七年度
町青少協総会終わる
青少年の心身共に健全な成長を図ろうと七月一日午後三時から町役場会議室で昭和五十七年度町青少年健全育成協議会総会が開かれ、係者三十六名が出席して行われた。席上、昭和五十六年度事業報告、同決算報告、同監査報告が行われた。また、昭和五十七年度事業計画案、同予算案が審議され原案通りに承認された。

指導、夜間補導、住民大会、啓蒙宣伝活動を行い青少年の不良化防止と環境浄化、地域住民の意識高揚を図っていく計画である。

各区対抗卓球大会が七月四日午前九時から西原中体育館で十一チームが参加して行われ、七区が六区を3-1で下し優勝に輝いた。

壮年ソフトボール大会賑わう

町体協(平安恒政会長)主催の第四回各区対抗壮年ソフトボール大会が、壮年の健康増進と融和を図るため七月十一日から十三までの三日間、西原中グラウンドで十五チームが参加して行われた。

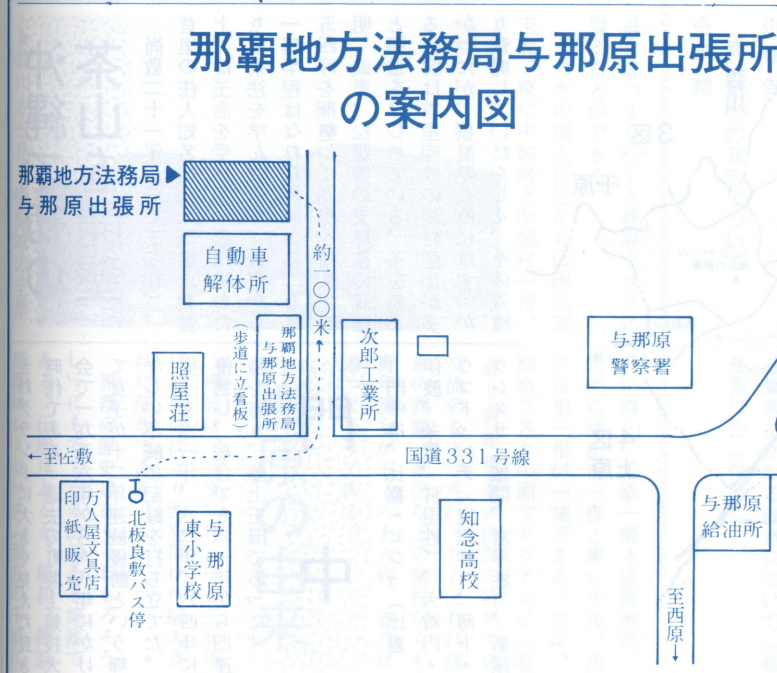
十日は午前十時から一回戦のみが行われ、十二日と十三日は午後七時半からナイターで二回戦と準決勝・決勝戦が行われた。

熱戦の結果、八区が十二区を14-12で下し初優勝に輝いた。

日頃スポーツに親しむ機会が少なかったが、参加チームはA組が八チーム、B組が五チーム。A組では翁長Aが十二区Aを8-3で下し優勝に輝いた。また、B組では嘉手苅Bが翁長Bを6-10で下し優勝した。

寄付のお礼

七月九日午後、字小波津四四二番地の小波津芳子さんが金を拾い、警察署に届けたが、持ち主が現れなかったため、その金二万円を町の社会福祉に役立てて下さいと町社会福祉協議会へ寄付がありました。



区対抗卓球大会 七区優勝

※当庁では印紙は販売していませんので近くの文具店か郵便局でお求め下さい。

交付手数料		
登記簿謄本	1通	350円
登記簿抄本	1通	350円
登記簿閲覧	1筆	100円
印鑑証明	1枚	100円

燃えるゴミ、燃えないゴミは分別して出しましょう。